

2007年統合後キャンパス引っ越しの折の発見:

「偶然の出会いの玉手箱」の原点だと思われる HP:大阪大学 CSCD 活動情報「下記記事」(上)にあります聖ロクス小教会は、ベルガモの高地・脇道に、人目を忍ぶ様にひっそりと建立されていたところを偶然に見つけたものです。

また、山口県光井村(現在光市)出身の廻船問屋「長門屋」光村弥兵衛の長男(庶子)・利藻の起業した「光村印刷」が請け負った、神戸『兵庫縣ペスト流行誌』(上下二巻本, 兵庫県警察部, 1912)は、1995年震災前に兵庫県庁から貸し出したものですが、「光村印刷」は、戦後令名を馳せる教科書会社「光村図書」の黎明期の出版事業になります。カラーイラスト・図版など目を引く整然とした「繋ぎ合せの美学」がそこにありました。

ところで、光村利藻は、理想を追求した「豪華仏教美術写真全集」など高く売れず、父の「廻船問屋」の戦時の武器輸送船に乗り込んで、一級の撮影技術で、日露戦争の従軍写真家となって、日本海を航行する「戦艦」写真集を出版して、赤字の埋め合わせを試みます。

さて、2007年統合後、豊中キャンパスに異動した際に手元に残るコピーを改めて繙いて『兵庫縣ペスト流行誌』奥付にある「光村印刷」住所を見て啞然としました。神戸の実家旧住所名でした。1914年、「中之島中央公会堂」の川を挟んだ南側、大阪支社「北浜写真館」(1972年取り壊された後、9階建ての松岡ビルとなり、現存。元々山口で隣港「室積浦」の廻船問屋「松岡」の親戚京大の整形外科医が日本初で開業するために、光村から譲り受けた)を、神戸本社同様に畳んで、再起を賭けて上京するのですが、40年後、祖母が両親の婚姻に際して、その住所にあった当時の新築家屋を1955年頃に買い与えています。勿論、何の関係もありませんが、「偶然の出会いの玉手箱」を開けて、仰天しました。

(上): <http://www.cscd.osaka-u.ac.jp/user/mashayas/activity/view/175.html>

(中): <http://www.cscd.osaka-u.ac.jp/user/mashayas/activity/view/247.html>

(下): <http://www.cscd.osaka-u.ac.jp/user/mashayas/activity/files/e8b8484da4786da0121270d71503b32a.pdf>

(上記 HP 中・下では、林田が歴史文献調査団として参画した1997-2007年島根県石見銀山世界遺産登録プロジェクトの概要を紹介しています。なお、世界遺産展示カタログ(2007)は咲耶会に寄贈)

国立国会図書館デジタルコレクション版『兵庫縣ペスト流行誌』(上下二巻本, 兵庫県警察部, 1912) カラー保存でない:

<http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/835389>

<http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/835390>

まず、研究ノートとして「明治期神戸発光村美術出版の系譜学」をまとめています。御覧下さい。

また、2018年所属先大阪大学 CO デザインセンターで水俣病の知見を深める研究会があり、東京在住の若い頃に学んだ、色川大吉や石牟礼道子の知識を整理しようと思ひ、日本窒素肥料株式会社創立 30 周年豪華本『日本窒素事業大観』(1938)を知る機会となり、奥付に「審美書院」の名前があつて、勿論「光村利藻」に関連するものと思ひ、調べてみました。

その結果をもう一つの研究ノート「考察:審美書院」でまとめましたので、ご高覧下さい。